

全学 FD 研修「高校での『情報 I』と『地理総合』—必修化の意図と授業内容—」を開催しました

全学FD研修

高校での「情報I」「地理総合」 — 必修化の意図と授業内容 —

開催趣旨

高校では2022年度より新学習指導要領に基づき、情報関連では2022年度より「情報I」が必修科目、2023年度より「情報II」が選択科目として新設され、2025年度（令和7年度）より「情報I」を履修した学生が大学に入学します。情報を活用して問題を発見・解決する力を養うと共に、情報社会に主体的に参画できる力の獲得を目指しており、基本情報として把握しておくことで、より効果的・効率的な授業構築に繋がると考えられます。また、地図やGISの実践的活用を一つの目的とした「地理総合」も必修科目として、空間情報を応用的に扱う「地理探究」も選択科目として新設されました。これらの内容も本学の多くの授業・研究と関係深いです。そこで、「情報I/II」と「地理総合/探究」の科目内容や導入意図、高大接続の状況などについてご講演いただきます。

開催概要

日時：2023年8月9日(水) 14時～16時

場所：オンライン（Zoom）

主催：分野融合型数理・データサイエンス・AI 教育推進本部

対象：教職員、学生

登録：研修会前日の8月8日(火)までに下記フォームから、ご登録ください。

<https://forms.office.com/r/0UQp2a5tqU>



プログラム

14:00-14:05 開会挨拶 加藤光保 副学長

14:05-15:05 講演「情報I/II」の新設趣旨と内容

小野永貴（図書館情報メディア系 助教）

大貫和則（日本文教出版 前 茗溪学園教諭）

15:05-15:35 講演「地理総合/探究」の新設趣旨と内容

井田仁康（人間系 系長）

15:35-16:00 質疑応答

講演者略歴

小野永貴先生：元・お茶の水女子大学附属高校教諭。情報科の教科主任を務め、附属学校全体の情報教育に関する研究会チーフを務める。その他、東京学芸大学附属高校、東京芸術大学音楽学部附属音楽高校で、情報科の非常勤講師も担当。高校生の情報利用に関する研究テーマで博士（図書館情報学）取得。現在、情報Iの検定教科書（東京書籍）の編集・執筆に従事。

大貫和則先生：つくば市の私立茗溪学園中学校高等学校にて30年間、中学生と高校生を対象に情報教育を実践。高校の情報科は実施初年度から授業を担当してきた。平成25年からの学習指導要領に基づく「社会と情報」、令和3年からの「情報I」の教科書執筆・編纂。現在は情報科教科書を出版する日本文教出版に勤務。

井田仁康先生：専門分野は社会科教育学・地理教育。文部科学省中央教育審議会委員、文部科学省学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者、日本社会科教育学会会長、日本地理教育学会会長等を歴任。現在、日本学術会議連携会員 地理教育分科会委員長、日本地理学会地理教育専門委員会委員長、中等社会科教育学会会長。地理総合（二宮書店）代表著作者。



8/9(水)14-16時に、分野融合型数理・データサイエンス・AI 教育推進本部 主催で、全学FD研修を開催しました。今回対象とした両科目は、PCの操作技術やGIS活用に留まらず、知識活用・問題解決型、思考力重視、社会参画の意図など、これまでの授業内容から大きく変化し、具体的な授業内容やその狙いについて解説いただきました。